

みよし市民病院の新棟建設について

院長 伊藤 治

2026/2/4

①コロナ対策から新棟建設までに係る病床の増減について

・2023年 新型コロナ対策のため、病床を改修

(7月) 4人床×4室→1人床×8室

【2F病棟68床→60床】

【一般病床・急性期を8床減らした】

※病院開設許可事項一部変更許可申請において、今回の改修によって減少した8床を、拠点工事で戻す(8床増加)予定であることを明記し、県に了解を得た

・2023年 10床を急性期から回復期へ転換

(12月) 【一般病床26床、包括病床34床に】

・2027年 医療介護連携拠点施設の建設により、病床を増床

(3月) 増:1人床×4室、4人床×2室

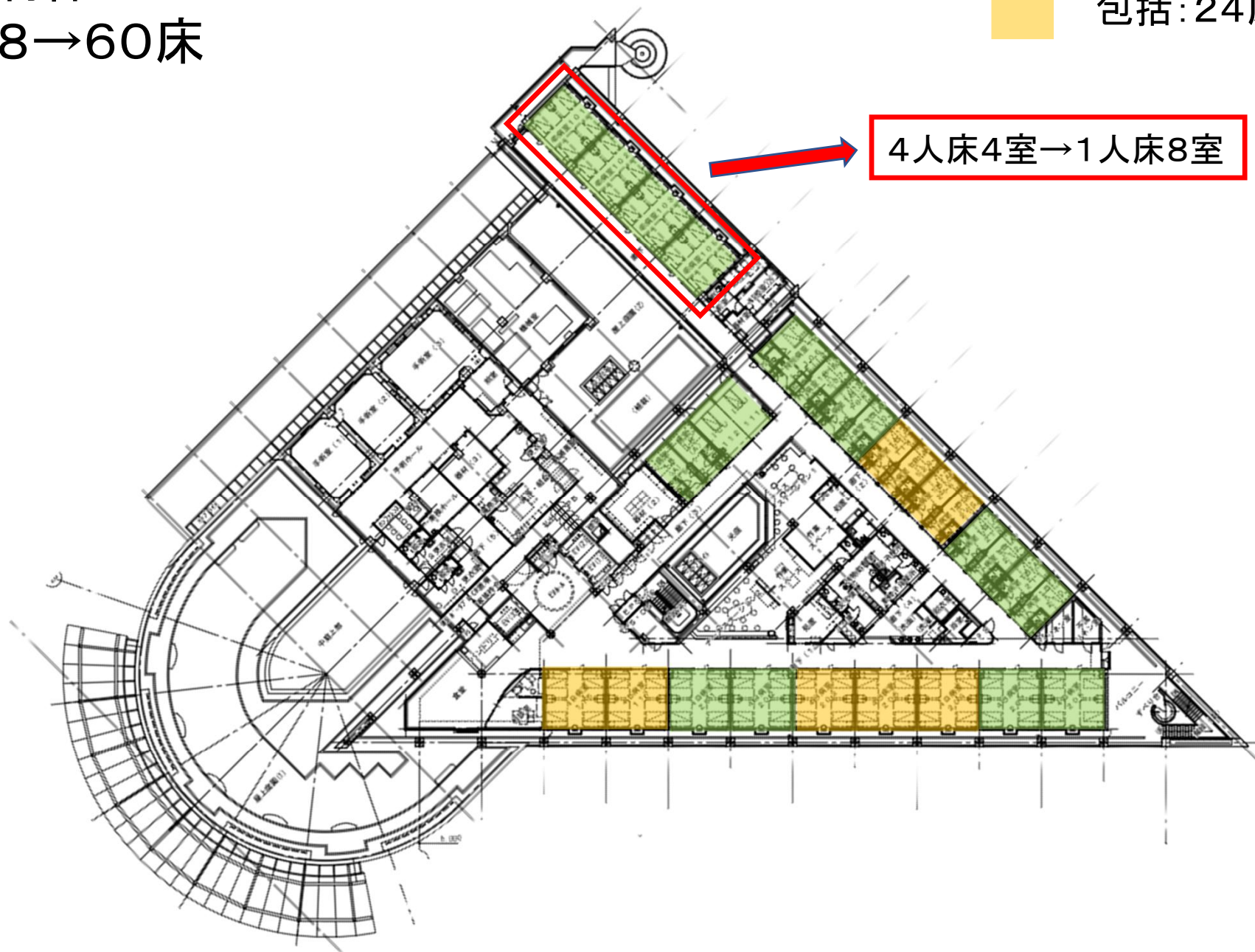
減:4人床×1室

【2F病棟60床→68床】

【一般病床・急性期を8床増やす】

2023年7月
2F病棟
68→60床

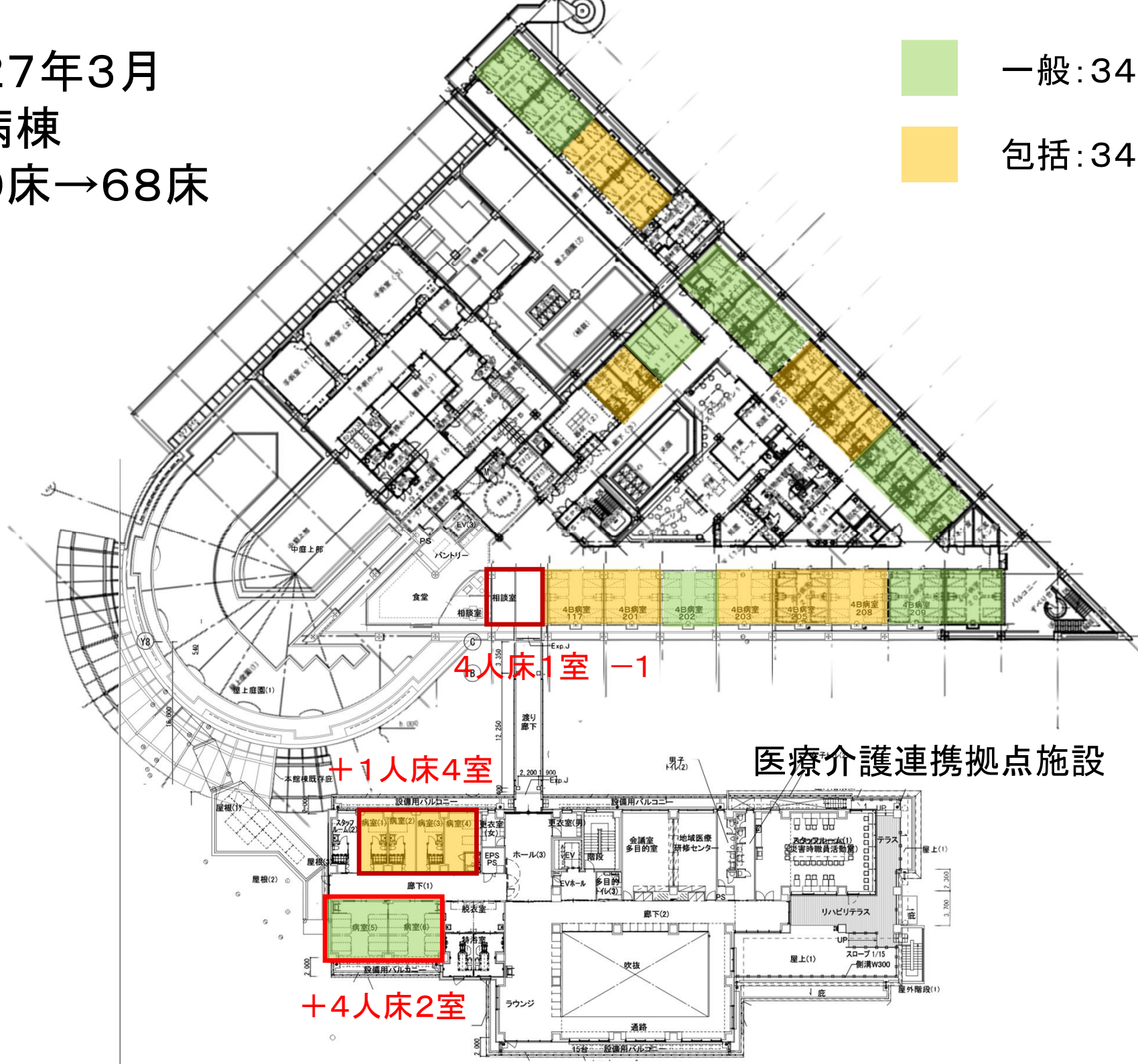
■ 一般:36床
■ 包括:24床



4人床4室→1人床8室

2027年3月
2F病棟
60床→68床

一般: 34床
包括: 34床



4人床1室 -1

+1人床4室

+4人床2室

医療介護連携拠点施設

②医療介護連携拠点施設について

当院と市内の介護・保健・福祉施設との連携を強化して市民の健康寿命の延伸を図り、認知症や要介護となっても市民が安心して生活できる地域包括ケアの構築を目指し、下記の4つの機能を備えます。

(1) 認知症・要介護になった人を支援する機能

認知症や要介護になっても市民が「あるがままに受け入れられる」共生社会を目指して、認知症カフェを常設します。また必要な支援を気軽に受けられるように地域包括支援センターを隣接します。病院の待ち時間はカフェでゆっくり過ごし、イベントホールで開催される健康体操や脳トレに参加することにより有意義に過ごすことができます。

(2) 在宅復帰を支援する機能

リハビリテーション課を拠点施設に移設して、リハビリスペース

をこれまでの2倍に増やします。ソーシャルワーカーを中心に多職種で退院を支援できるように、家族やケアマネジャーとの支援会議を開催する相談室を施設内に整備します。

(3) 在宅医療・在宅介護を支援する機能

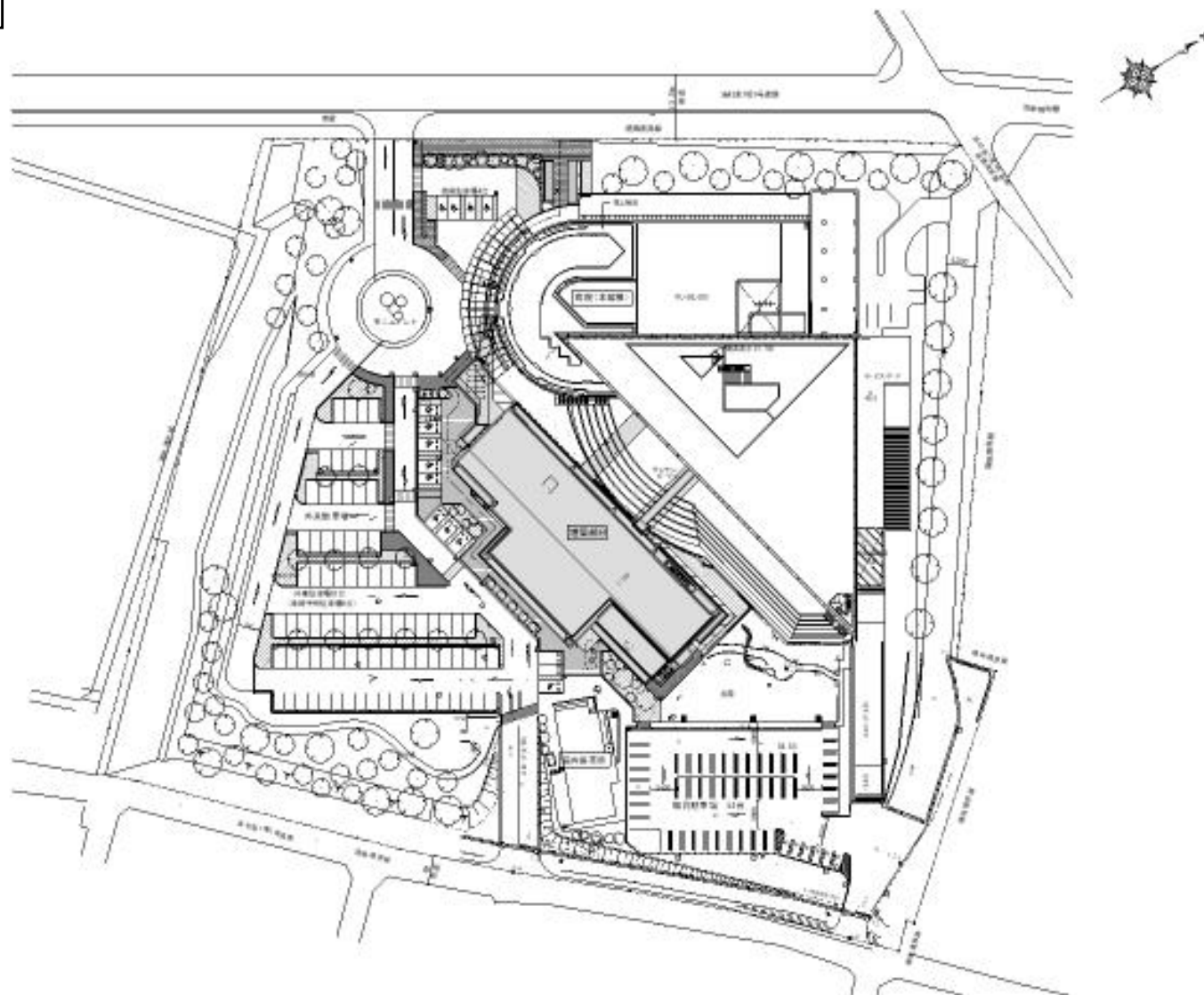
多くの市民が人生の最期は自宅で過ごしたいと願っています。今後、増加が見込まれる在宅医療のニーズに応えるための訪問診療や訪問看護と、生活を支援する訪問リハビリテーションや訪問栄養指導の各センターを施設内に整備します。

(4) 新興感染症・災害に備える機能

拠点施設はウイルスなどを除去できる空調設備を備え、イベントホールは新型インフルエンザなどの新興感染症のワクチン接種会場となります。大規模災害時の当院の役割は応急救護所の後方支援病院です。拠点施設は災害時の医療本部機能を備え、搬送された患者の一時待機所として、当院または高次医療機関での治療の振り分け(トリアージ)機能を担います。

- ・鉄筋コンクリート造り2階建て
建築面積 1496.79㎡、延床面積 2417.94㎡

配置図



1階平面図

